



上養老橋デッキから見た上り列車走行の様子。

千葉県 小湊鐵道 小湊鐵道線

文・渋谷申博
text by Nobuhiro SHIBUYA



連載 第17回
民営鐵道の
起源を訪ねて
鐵路は何を目指したか

房総半島横断の 夢を追って

もう半世紀も前のことになるが、筆者は高校生の頃に、趣味で関東の終着駅巡りをしていた。その旅で3番目に訪れた駅が上総中野駅だった。その後も杜寺巡りのため、小湊鐵道を度々利用してきたが、終着駅まで乗車することはなかったので、上総中野駅を訪れるのはその時以来である。

小湊鐵道の開業は大正14（1925）年3月7日に遡る。五井〜里見間、25・7 kmでの開業で、上総中野に至る全線が開通したのは昭和3（1928）年のことだ。

小湊鐵道は五井から安房小湊（現・鴨川市小湊）に至る路線として計画された。小湊は日蓮宗開祖・日蓮が生まれた地で、生家跡に建立されたとされる誕生寺があることから、多くの観光客や信者が訪れていた。しかし、当時の小湊に鐵道は通っておらず、乗合自動車を使うか、汽船で行かなければならなかった。こうした事情に加え、内房と外房を結ぶ交通路整備の観点からも、鐵路の開通が望まれていた。

大正2（1913）年に五井〜小湊間の鐵道敷設免許の認可が下り、大正6年（1917）には小湊鐵道株式会社が発足した。五井〜上総中野の工事は順調に進み開業に至ったが、上総中野から先、小湊に至る工事はストップしてしまった。外房の大原から上総中野を結ぶ国鉄本原線（現・いすみ鐵道）の敷設や、房総線（現・外房線）

光風台駅



光風台団地の造成に合わせて昭和51(1976)年に開業した、小湊鐵道では一番新しい駅。国登録有形文化財の第一養老川橋梁が眺められる上養老橋デッキも近い。

こみなと待合室



小湊鐵道直営のカフェスペース併設の待合室。鉄道やバスの出発待ちや待ち合わせに利用できる。安全第一カレーなどフードメニューも充実。

五井駅



小湊鐵道とJR東日本の共同使用駅。小湊鐵道の始発駅であり、JR内房線の駅でもある。写真の左上に見えているのが小湊鐵道のホームと車両。

養老溪谷駅



昭和3(1928)年の開業当時は朝生原駅といった。昭和29年に現駅名に変更。養老溪谷温泉郷などの観光地への玄関口。駅周辺を森に戻す逆開発が進行中。

養老溪谷



養老川によって形成された溪谷で夷隅郡大湊町から市原市朝生原にわたって続く。溪谷沿いには養老溪谷温泉郷がある。写真中央の橋は出世観音立國寺の参道。

小湊鐵道線 路線図



高瀧神社



白鳳2(662)年創建と伝わる古社。古くより縁結び・安産・子育ての靈験で有名。現在の社殿は享保12(1727)年に再建されたもの。

高滝湖



養老川の氾濫予防と水源開発のために建設された高滝ダムのダム湖。平成2(1990)年に完成。周辺には美術館やグランピングなどの宿泊施設などがある。

上総中野駅



小湊鐵道の終着駅。五井駅からの営業キロは39.1キロメートル。いすみ鐵道いすみ線の接続駅となっている。小湊鐵道で唯一、市原市ではなく大多喜町にある駅。

小湊鐵道株式会社

Kominato Railway Co., Ltd.

設立 1917年(大正6年)5月19日
本社所在地 千葉県市原市五井中央東一丁目1-2
小湊鐵道線 五井駅～上総中野駅(39.1km)
<https://www.kominato.co.jp>

が開通して小湊へのアクセスが確保されたこと等が要因となり、上総中野～小湊の開通は断念せざるをえなくなったのだ。

今回の旅は、五井駅で1日フリー乗車券を買うことから始まった。五井は上総国の中心地だった場所で、国分寺のほか役所などがあつたと考えられている。車窓から住宅地と農地が入り交じる風景を眺めつつ、当時の五井を想像するのは楽しい。

沿線には、ほかにも歴史や物語に関わる名所があり、途中下車したい衝動に駆られるが、まずは上総中野駅を目指す。

小湊鐵道の駅には開業当時の建造物が多く残されており、10の駅舎のほか橋梁・隧道(トンネル)・機関庫などが国の登録有形文化財になっている。

上総中野駅に到着すると、駅舎は建て替えられていたが、ホームから見た景色は半世紀前の記憶と変わっておらず、タイムトリップしたかのような感慨に浸った。

懐かしい気持ちは養老溪谷駅でより高まった。駅前広場の様子はすっかり変わっていたが、モダンなデザインの駅舎は現在も開業当時のままだ。

その後巡った、日本の観光地の原風景といいたくなるような養老溪谷温泉や、広々とした高滝湖、千年を超える歴史をもつ高瀧神社も印象的だったが、光風台駅周辺も沿線開発の歴史が感じられて興味深かった。

旅の終わりは五井駅前の「こみなと待合室」へ。小湊鐵道の会議室を改装したという店内で小腹を満たし、帰路についた。

しぶやのぶひろ

1960年、東京生まれ。早稲田大学卒。日本宗教史研究家。主な著作に「成り立ちや教えがわかればもっと興味深い! 密教の教科書」(ナツメ社)、『聖地鉄道めぐり』(GB)、『トホホな日本人物伝』(時事通信社) ほかがある。